

「グローバルスタディ科」実施に関する 交渉結果



さいたま市教組新聞

2016年度からさいたま市の小中学校で実施される「グローバルスタディ科」にかかわって、下記のとおり要求し11月24日（火）に交渉しました。以下、回答を報告します。

記

1、2016年度からさいたま市小中学校全校で本格実施される「グローバルスタディ科」は全校への説明が不十分であり、未だにテキストやカリキュラムが配布されていない現状では、準備不足であるので、全校での実施を1年延期すること。

【指導1課】

準備が不十分であることは認識している。現場の先生方の力を借りながら、来年度から実施していきたい。

2、本格実施にあたっては、英語専科の配置や担任の負担軽減への配慮など、教育条件を十分に整えて実施できるように努めること。

【指導1課】

現場の先生方の負担軽減になるよう、

ALTの全校配置、5・6年には非常勤で専科教員がつくように予算を確保したいと考えている。

3、教育課程の編成権は学校にあるので、実施にあたっては、各学校の教職員の意見を十分に聞くこと。

【指導1課】

当然、現場の声を聞いて実施していく。各学校の地域の実態や子どもの実態に考慮して実施をお願いしていく。

【組合】

交渉の中で小学校から「英語」を教えていくことについては様々な意見があること。現場は多忙化で、教員はいつぱいいつぱいで仕事をしていることなど、負担軽減に理解を求めました。また、中学校においては現行の「英語」4時間は変わらず、新たなプラス0・5時間で内容を増やしていく考えであることも確認しました。小学校3・4年、小学校5・6年で行う評価（ABC）については、「来年2月に指導例と評価の観点を示す」と回答しました。

No. 2 2 1

2015.11.25

【発行者】

さいたま市
教職員組合

048-641-6763

*****さいたま市教組は10月にアンケートを実施しました。寄せられた意見です。*****

- ・評価はどうするのがよくわからない。
- ・中学校で現在行われている「英語科」との関係がよくわからない。
- ・「グローバルスタディ科」の全体像がよく見えないので、説明してほしい。
- ・小学校の教員は「英語」の免許をもっていないので、英語専科を全校に配置してほしい。
- ・職場は今でも忙しいのに、担任の負担が増え、子どもと向き合う時間がますます少なくなるのではないのか。
- ・「総合的学習」の時間が減ってしまうことで、今までの行ってきた学習活動ができなくなる問題はないのか。
- ・採択された中学校の英語教科書はどのように扱われるのか。また、高校入試で問題はないのか。
- ・11月になっても、いまだにテキストやカリキュラムが配られていない現状で準備が間に合うのか疑問だ。